

田金秀一郎^{a,*}, 中西弘樹^b: 日本新産のシソ科ヒメキセワタ属の一種オオヒメキセワタ (新称) *Matsumurella chinensis*

^a 鹿児島大学総合研究博物館

^b 亜熱帯植物研究所

Shuichiro TAGANE ^{a,*} and Hiroki NAKANISHI ^b: *Matsumurella chinensis* (Lamiaceae), New to the Flora of Japan

^aThe Kagoshima University Museum, Kagoshima University, 1-21-30, Korimoto, Kagoshima, 890-0065 JAPAN;

^bSubtropical Botanical Institute, 2-29-4, Manabino, Nagayo-cho, Nishisonogi-gun, Nagasaki, 851-2130 JAPAN

*Corresponding author: stagane29@gmail.com

(Accepted on 28 January 2021)

Summary: *Matsumurella chinensis* (Benth.) Benth. (Lamiaceae) is recorded for the flora of Japan for the first time. The species was found in Goto Islands, Nagasaki Pref., western Japan. Photographs of living plants, image of voucher specimen, and its distribution map are provided.

ヒメキセワタ属 (*Matsumurella* Makino) はシソ科オドリコソウ亜科 (*Lamioideae*; *Lamiaceae*) の小さな属で、東アジアに5種が分布する (Bendiksby et al. 2011, The Plant List 2013, POWO 2019). 日本には、九州南部から種子島、宝島、奄美大島、久米島にヒメキセワタ *M. tubrifera* (Makino) Makino の1種のみ知られていた (初島 1975, 堀田 2013, Murata and Yamazaki 1993, 志内・堀田 2015, 米倉 2017, 琉球の植物研究グループ 2018–). 一方、中西 (2011) は、長崎県の五島列島福江島においてヒメキセワタの分布を初めて報告し、長崎県レッドデータブック (2012) や長崎県植物誌 (中西 2015) にも本種が掲載されている。その後、五島列島の新上五島町の東部に位置する無人島の相ノ島からも発見された (中西 2017)。

今回、長崎県産のヒメキセワタと同定された植物標本 (Fig. 2) について、改めて関連するシソ科の分類に関する文献 (Li and Hedge 1994, Murata and Yamazaki 1993, Ko et al. 2014, 米倉 2017 など) や鹿児島大学総合研究博物館植物標本室 (KAG) の植物標本、および JSTOR Global Plants ([\[jstor.org\]\(https://www.cvh.ac.cn\)\) や Chinese Virtual Herbarium \(<https://www.cvh.ac.cn>\) などで公開されている標本画像と比較検討した。](https://plants.</p></div><div data-bbox=)

その結果、ヒメキセワタは草丈 10–20(–25) cm、葉身は三角形～ひし形の広卵形で長さ 1–4 cm、鋸歯 4–7 対、花冠は長さ 1.2–1.5 cm であるが、中西 (2011, 2017) によって報告された長崎県産の植物は、草丈が高さ 20–31 cm と高く、茎の中部につく葉身は狭卵形～長楕円状卵形で長さ 3.6–10.2 cm と大型で鋸歯が (7–)11–14 対あり、花冠が 1.8–2.2 cm と長いことなどの特徴から、ヒメキセワタではなく、*M. chinensis* (Benth.) Bendiksby であることが判明した。

Matsumurella chinensis はこれまでに中国南東部と台湾でのみ分布が知られ、日本では自生の記録がないため、今回、日本新産の植物「オオヒメキセワタ」(和名新称) として報告する。日本における本種の変異を把握するため、長崎県産の標本 (野生条件で採集されたものと、移植して開花・結実時に標本にしたものの両方を含む) に基づく記載も合わせて報告する。

なお、オオヒメキセワタは Ko et al. (2014) によって韓国南部の甫吉島から記載されたパラフロミス属 (*Paraphlomis* Prain) の *P. koreana* S.C.Ko et G.Y.Chung にも酷似している。*Paraphlomis* 属と *Matsumurella* 属は萼筒に対する萼裂片の長さで (Bendiksby et al. 2011)、あるいは *Galeobdolon* 属とは果実の形状で識別できるとされるが (Li and

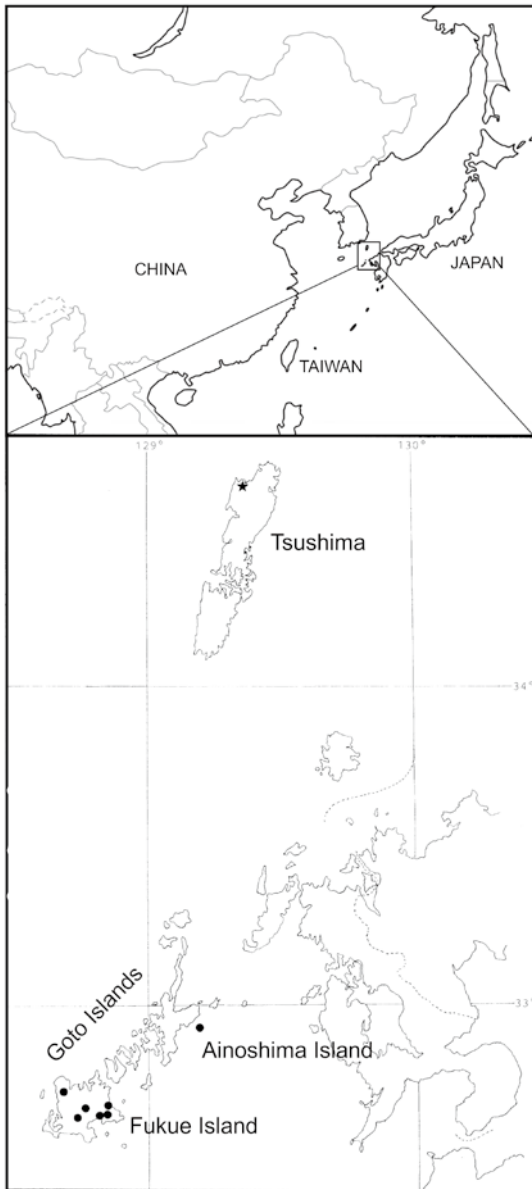


Fig. 3. Distribution of *Matsumurella chinensis* in Nagasaki Pref., Japan (closed circles). Star symbol shows the locality of an undetermined lineage of *Matsumurella* in Tsushima Island reported by Murakami (1985).

日本国内における分布と生態

中西 (2011, 2017) によって長崎県の福江島と新上五島町の東に位置する相ノ島にそれぞれ1地点ずつ記録されているが、その後の調査で福江島内の6地点にも生育していることが明らかとなっ

ている (Fig. 3)。これまでに確認されているオオヒメキシセワタの生育地は、比較的土壌が発達した明るい林床や林縁部であった。オオヒメキシセワタは多年草であり、花は3月下旬から5月初旬に咲き、5月中旬過ぎに結実し、夏には地上部が枯れる。10月中旬ごろに地下茎から芽を出し、草丈数 cm, 3-5 対の葉をつけた状態で冬を越す。

邑上 (1985) は著書「対馬の花 II」にて、対馬市上県町の千俵蒔山で撮影した「ヒメキシセワタ」の写真を掲載しているが、写真からではヒメキシセワタかオオヒメキシセワタか我々には明確な判断ができなかった。著者の一人である中西は、この撮影地を幾度か訪れて探索したものの、ついに見つけることはできなかった。この地域はシカの食害が酷く、すでに消失したものと考えられる。今回の報告を機に、長崎県島嶼部を中心にオオヒメキシセワタのさらなる分布地点が確認されることを期待したい。

長崎県福江島における産地の追加は五島市の上田浩一氏の協力を得て調査を行った。厚くお礼を申し上げる。本研究は一部で鹿児島大学経営戦略経費 (島嶼) の「奄美群島を中心とした島嶼グローバル教育研究拠点強化 及び国内外組織との連携推進」および環境省の「環境研究総合推進費 (4-2001)」の援助を受けて実施した。

摘要

長崎県五島列島の福江島と相ノ島にて *Matsumurella chinensis* (Benth.) Bendiksby が確認されたので、和名をオオヒメキシセワタとして報告する。

References 引用文献

- Bendiksby M., Thorbek L., Scheen A.-C., Lindqvist C. and Ryding O. 2011. An updated phylogeny and classification of *Lamiaceae* subfamily *Lamioideae*. *Taxon* **60**: 471-484.
- Hatusima S. 1975. Flora of the Ryukyus. Biological Society of Okinawa, Okinawa. (in Japanese). 初島住彦 1975. 琉球植物誌 (追加・訂正). 沖縄生物学会, 那覇.
- Hotta M. 2013. Flora of the Amami Islands. The Kagoshima University Museum, Kagoshima. (in Japanese). 堀田満 2013. 奄美群島植物目録. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- Ko S.-C., Lee Y.-M., Chung K.-S., Son D.-C., Nam B.M. and Chung G.-Y. 2014. A new species of *Paraphlomis*